被災地支援で出来ること

AMDAの高校生らフォーラム

国際医療NGO「AMDA（アムダ）」（本部・岡山市北区）のメンバーの高校生が5日、県内の高校に呼びかけて、高校生として震災被災地のために何が出来るかなどを考えるフォーラムを北区南方2丁目のきらめきプラザで開いた。

参加した高校生は約30人。五つのテーマに分かれて約1時間半議論し、それぞれの結論を発表した。

「被災地のためにできること」を考えた班は、「震災の被害がなかった地域では記憶の風化が進んでいる」として、「全国に震災を伝える石碑を置く」というアイデアを披露した。

議論の結果を発表する高校生＝岡山市北区南方2丁目

「岡山の防災」について話し合った班は「岡山県民は災害への危機感が少ないが、30年以内に南海トラフ地震が起きる可能性は70％との推計もある。町や学校にポスターを貼って危機感を伝えないといけない」と呼びかけた。

終了後、AMDA高校生会のリーダーで県立岡山操山高校3年、渡代隆介（わただい）さん(17)は「昨年初めて被災地の宮城県に行き、何もなくなったかつての住宅街を見て衝撃を受けた。ひとごとと思わずに、被災地のためになる活動を継続していきたい」と話した。（定塚遼）